

子育て支援員研修(基本・専門)研修科目等 (案)

目 次

1. 子育て支援員研修(基本・専門)科目(案)の考え方	1
2. 子育て支援員研修(基本・専門)科目(案)一覧	3
3. 基本研修科目(案)	5
4. 専門研修科目(案)	
①放課後児童コース	8
②社会的養護コース	11
③地域保育コース	13
④地域子育て支援コース	22
5. 子育て支援員研修(基本・専門)の時間数(案)	26
6. 子育て支援員研修(フォローアップ研修・現任研修)(案)	27

子育て支援員研修(基本・専門)科目(案)の考え方①

子育て支援員研修の考え方

子育て支援員研修は、保育や子育て支援の仕事に関心を持ち、子育て支援分野の各事業に従事することを希望する者等を対象に必要な研修を実施するものであり、対象となる事業の範囲が幅広いことから、各事業のベースとなる「基本研修」と各事業の特性に応じた「専門研修」によって構成する。また、幅広い人材が本研修を受講することから、研修時間数について考慮するとともに、基本研修及び専門研修によって各事業に従事するために最低限必要な知識・原理・技術・倫理を修得するものとする。

基本研修の考え方

基本研修では専門研修で修得する各事業の特性等に応じた具体的な内容を学ぶための前提となる、子育て支援員としての役割や子どもへの関わり方を理解し、子育て支援員としての自覚を持つことを目的に子育て支援員として最低限修得しておくことが必要な子育て支援に関する基礎的な知識・原理・技術・倫理について修得するものとする。

専門研修の考え方

放課後児童コース

放課後児童コースの専門研修については、放課後児童支援員の業務を補助員も全般にわたり基本的には担うという考え方を基本としつつ、これまでの子育て経験や教育を受けた価値観にとらわれることなく、放課後児童クラブの支援者として関わっていただくことが重要であり、新たな子ども観や子育て環境の変化などを理解するための内容とする。

科目構成は、放課後児童クラブの理解、子どもの理解のための基礎知識、子どもの育成支援、安全・安心への対応等の従事者として求められる役割・機能を学ぶものとする。

社会的養護コース

社会的養護コースの専門研修については、「社会的養護の入口」としての社会的養護の基本的知識等を持つ人材層の充実に目的として、社会的養護に関する基本的な理念・知識・技術を習得する内容とする。

科目構成は、小規模グループケア等の社会的養護における補助的な支援者として従事するうえで必要となる、虐待を受けた児童等社会的養護を必要とする子どもの理解など、社会的養護の基本的理解や支援技術などを学ぶものとする。

子育て支援員研修(基本・専門)科目(案)の考え方②

専門研修の考え方(続き)

地域保育コース

地域保育コースの専門研修については、基本研修とあわせて現行の家庭的保育事業の基礎研修と同等以上の研修とする。また、各事業(家庭的保育事業、小規模保育事業、事業所内保育事業、一時預かり事業、ファミリー・サポート・センター事業)の特性を踏まえ、各事業で共通にできる科目(共通科目)と各事業ごとに必要となる科目(専門科目)に分け、このうち、家庭的保育事業、小規模保育事業、事業所内保育事業については、「地域型保育」として同じカリキュラムとし、「一時預かり事業」、「ファミリー・サポート・センター」と合わせて3つの研修カリキュラムを設ける。

なお、「地域型保育」の研修を受講した者は、一時預かり事業に従事できることとする。ただし、「一時預かり事業」の研修を受講することを推奨する。

地域子育て支援コース

○地域子育て支援コースの専門研修については、対象事業・類型(利用者支援事業<基本型><特定型>・地域子育て支援拠点事業)ごとに実施内容や従事者に求められる資質に違いがあることから、各々の研修カリキュラムを設定する。

・利用者支援事業(基本型)

利用者支援事業(基本型)については、保育等の直接処遇を行わず、相談支援・ソーシャルワーク的な事業である特性に鑑み研修内容を設定する。(※事業の特性を鑑みて、受講対象者は一定の実務経験がある者等に限る。)

・利用者支援事業(特定型)

利用者支援事業(特定型)については、保育に特化した利用支援を行うことから、保育資源の把握等に関する科目及び基本型の機能と共通する部分の研修科目を中心に研修内容を設定する。

・地域子育て支援拠点事業

地域子育て支援拠点事業については、当該事業が当事者目線で、利用者の身近な立場から寄り添った支援を行うという特性に考慮した研修内容を設定する。

子育て支援員研修(基本・専門)科目(案)一覧①

基本研修	8科目 8時間	①子ども・子育て家庭の現状 (60分)	②子ども家庭福祉 (60分)	③子どもの発達 (60分)	④保育の原理 (60分)
		⑤対人援助の価値と倫理 (60分)	⑥子ども虐待と社会的養護 (60分)	⑦子どもの障害 (60分)	⑧総合演習 (60分)

放課後児童 コース	6科目 9時間	①放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容 (90分)	②放課後児童クラブにおける権利擁護とその機能・役割等 (90分)	③子どもの発達理解と児童期(6歳~12歳)の生活と発達 (90分)	④子どもの生活と遊びの理解と支援 (90分)	⑤子どもの生活面における対応等 (90分)	⑥放課後児童クラブに従事する者の仕事内容と職場倫理 (90分)
--------------	------------	--------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------	---------------------------	--------------------------	------------------------------------

社会的養護 コース	9科目 11時間	①社会的養護の理解 (60分)	②子ども等の権利擁護、対象者の尊厳の遵守、職業倫理 (60分)	③社会的養護を必要とする子どもの理解 (90分)	④家族との連携 (60分)
		⑤地域との連携 (60分)	⑥社会的養護を必要とする子どもの遊び理解と実際 (90分)	⑦支援技術 (60分)	⑧緊急時の対応 (60分)

地域子育て支援 コース	基本型	9科目 24時間	①地域資源の理解(事前学習) (480分)	②利用者支援事業の概要 (60分)	③地域資源の概要 I (60分)	④利用者支援専門員に求められる基本的姿勢と倫理 (90分)	⑤記録の取扱い (60分)	⑥事例分析 I ~ジェノグラムとエコマップを活用したアセスメント~ (90分)	⑦事例分析 II ~社会資源の活用とコーディネーション~ (90分)	⑧まとめ (30分)	⑨地域資源の見学 (480分)
	特定型	5科目 5.5時間	①利用者支援事業の概要 (60分)		②利用者支援専門員に求められる基本的姿勢と倫理 (60分)		③保育資源の概要 (90分)	④記録の取扱い (60分)		⑤まとめ (60分)	
	拠点	6科目 6時間	①地域子育て支援拠点を全体像で捉えるための科目 (60分)		②利用者理解 (60分)	③地域子育て支援拠点の活動 (60分)		④講座の企画 (60分)	⑤事例検討 (60分)		⑥地域資源の連携づくりと促進 (60分)

子育て支援員研修(基本・専門)科目一覧(案)②

地域 保育 コース	16科目～ 18科目 21時間～ 22時間+2日以上	共通	12科目 15～ 15.5 時間	①乳幼児の生活と遊び (60分)	②乳幼児の発達と心理 (90分)	③乳幼児の食事と栄養 (60分)	④小児保健 I (60分)	⑤小児保健 II (60分)
				⑥心肺蘇生法 (120分)	⑦地域保育の環境整備 (60分)	⑧安全の確保とリスクマネジメント (60分)	⑨保育者の職業倫理と配慮事項 (90分)	⑩特別に配慮を要する子どもへの対応(0～2歳児) (90分)
				⑪グループ討議 (90分)	⑫実施自治体の制度について(任意) (60～90分)			
		選択	地域型保育 6科目 6～ 6.5 時間 +2日 以上	①地域型保育の概要 (60分)	②地域型保育の保育内容 (120分)	③地域型保育の運営 (60分)	④地域型保育における保護者への対応 (90分)	⑤見学オリエンテーション (30～60分)
				⑥見学実習 2日以上				
			一時預かり事業 6科目 6～ 6.5 時間 +2日 以上	①一時預かり事業の概要 (60分)	②一時預かり事業の保育内容 (120分)	③一時預かり事業の運営 (60分)	④一時預かり事業における保護者への対応 (90分)	⑤見学オリエンテーション (30～60分)
				⑥見学実習 2日以上				
		ファミリー・サポート・センター 4科目 6.5 時間	①ファミリー・サポート・センターの概要 (60分)	②ファミリー・サポート・センターの援助内容 (120分)	③ファミリー・サポート・センターにおける保護者への対応 (90分)	④援助活動の実際 (120分)		

基本研修(案)①

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
1. 子ども・子育てに関する制度や社会状況における子育て支援事業の役割を捉えるための科目				
①子ども・子育て家庭の現状	講義	60分	<p><子ども・子育て家庭(対人援助を行う対象)に対する理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ①子どもの育つ社会・環境 ②子育て家庭の変容 ③ワークライフバランス 	<ul style="list-style-type: none"> ①子ども・子育て家庭と家庭生活を取り巻く社会的状況について理解する。 ②家庭の意義と多様な子ども・子育て家庭のニーズと子育て支援等の現状と課題について理解する。 ③子ども・子育て家庭の支援について理解する。 ④子育て家庭の貧困や非行などの背景の概要について理解する。
②子ども家庭福祉	講義	60分	<p><子育て支援制度の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ①子ども・子育て支援新制度の概要 ②子ども家庭福祉施策の理解 ③子ども家庭福祉に係る資源の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ①子ども家庭福祉施策・制度の概要(子ども・子育て支援新制度の概要と子育て支援員が関わる事業の枠組みと位置付け等)について理解する。 ②児童福祉施設等と専門職の役割について理解する。 ③子ども家庭福祉に関する地域資源の概要(地域の人材確保を含む)について理解する。
2. 支援の意味や役割を理解するための科目				
③子どもの発達	講義	60分	<p><子ども・子育て家庭(対人援助を行う対象)に対する理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ①発達への理解 ②発達への援助 ③胎児期から青年期までの発達 ④子どもの遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの発達の概要について理解する。 ②子どもの発達について発達観(「研修内容の構造」の視点(別紙))について理解する。 ③生涯発達の概要について理解する。 ④子どもの発達に応じた援助の基礎について理解する。 ⑤「遊び」の意義と「遊び」の質について理解する。
④保育の原理	講義	60分	<p><子育て支援(対人援助)を行うための援助原理の理解></p> <ul style="list-style-type: none"> ①発達・成長の保障 ②情緒の安定 ③生命の保持 	<ul style="list-style-type: none"> ①発達・成長過程に応じた保育の基礎について理解する。 ②情緒の安定と生命の保持に係る保育の基礎について理解する。 ③子育て支援事業における安全対策の必要性、危機管理の概要について理解する。

基本研修(案)②

科目名	区分	時間数	内容	目的
⑤対人援助の価値と倫理	講義	60分	<p><子育て支援(対人援助)を行うための援助原理の理解></p> <p>①保護者・職場内・他組織・地域の人々との連携・協力 ②守秘義務・個人情報の保護 ③子どもの最善の利益 ④利用者主体 ⑤対象者の尊厳の遵守</p>	<p>①対人援助の価値について理解する。 ②保護者・関係者・関係機関との連携・協力の必要性について理解する。 ③対人援助の倫理について理解する。 ④子どもの権利擁護の基本的視点について理解する。 ⑤子育て支援員の役割と倫理について理解する。</p>

3. 特別な支援を必要とする家庭を理解するための科目

⑥子ども虐待と社会的養護	講義	60分	<p><子育て支援(対人援助)を行うための援助原理の理解></p> <p>①子ども虐待と影響 ②虐待の発見と通告 ③虐待を受けた子どもに見られる行動 ④子どもの権利を守る関わり ⑤社会的養護の現状</p>	<p>①子ども虐待(家庭における配偶者等からの暴力(DV)を含む)とその影響(虐待を受けた子どもに見られる行動など)について理解する。 ②虐待を受けたと思われる子どもを発見した際の基本的な対応の概要について理解する。 ③子どもの最善の利益を尊重するための援助について理解する。 ④社会的養護の意義と現状の概要について理解する。 ⑤社会的養護を必要とする子どもや家庭の状況について理解する。</p>
⑦子どもの障害	講義	60分	<p><子育て支援(対人援助)を行うための援助原理の理解></p> <p>①障害児支援制度の理解(合理的配慮を含む) ②障害特性に応じた関わり方・専門機関との連携 ③障害児支援等の理解</p>	<p>①障害特性について概要について理解する。 ②障害児支援制度の概要について理解する。 ③障害特性に応じた関わり方や専門機関との連携の概要について理解する。 ④障害児支援等の現状について理解する。</p>

基本研修(案)③

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
4. 総合演習				
⑧総合演習	演習	60分	①子ども・子育て家庭の現状の考察・検討 ②子ども・子育て家庭への支援と役割の考察・検討 ③特別な支援を必要とする家庭の考察・検討	①履修した内容についての振り返りを図るためのグループ討議。 ②子育て支援員に求められる資質についての理解の確認。 ③履修した内容の総括と今後の課題認識の確認。 ※内容欄のテーマをもとに、研修効果の定着を図るために上記①～③のいずれかの振り返りを行う。

8科目・8時間
総合演習はレポート提出に代替可

専門研修(放課後児童コース)(案)①

項目・科目名	区分	時間数	内容(主な内容)	目的(ねらい)
1. 放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の理解				
①放課後児童健全育成事業の目的及び制度内容	講義	90分	①放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の目的 ②放課後児童健全育成事業の一般原則とその役割 ③放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の内容	①放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)の目的を学ぶ。 ②放課後児童健全育成事業の一般原則とその役割を学ぶ。 ③放課後児童健全育成事業に関する法律、政省令及び通知等の内容を学ぶ。
②放課後児童クラブにおける権利擁護とその機能・役割等	講義	90分	①放課後児童クラブにおける子どもの権利に関する基礎知識 ②放課後児童クラブにおける権利擁護・法令の遵守の内容 ③利用者への虐待等の禁止と予防 ④放課後児童クラブにおける保護者との関わり方や学校、保育所・幼稚園等及び地域との連携の必要性	①放課後児童クラブにおける子どもの権利についての基礎を学ぶ。 ②放課後児童クラブにおける権利擁護・法令の遵守の基本を学ぶ。 ③放課後児童クラブにおける保護者との関わり方や学校、保育所・幼稚園等及び地域との連携の必要性を学ぶ。
2. 子どもを理解するための基礎知識				
③子どもの発達理解と児童期(6歳～12歳)の生活と発達	講義	90分	①子どもの発達と育成支援 ②発達面からみた児童期(6歳～12歳)の一般的特性 ③子どもの社会性の発達	①子どもの育成支援のために子どもの発達を理解することの大切さを知る。 ②発達からみた児童期の一般的な特性を知る。 ③児童期の生活と遊びを理解するために必要な発達についての基礎を学ぶ。

専門研修(放課後児童コース)(案)②

項目・科目名	区分	時間数	内容(主な内容)	目的(ねらい)
3. 放課後児童クラブにおける子どもの育成支援				
④子どもの生活と遊びの理解と支援	講義	90分	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもにとっての放課後の生活 ②子どもの遊びと発達 ③放課後児童クラブにおける子どもの遊びと仲間関係 ④放課後児童クラブにおける子どもの遊びと環境 ⑤子どもの遊びと大人の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後児童クラブに通う子どもについて知る。 ②子どもの生活における遊びの大切さを知る。 ③子どもの自主性、創造性を大切にする遊びへの関わり方を学ぶ。
4. 放課後児童クラブにおける安全・安心への対応				
⑤子どもの生活面における対応等	講義	90分	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後児童クラブにおける子どもの放課後等の健康管理・情緒の安定を図る役割 ②子どもの健康状態や心身の状況の把握と放課後児童クラブでの対応、保護者との連絡 ③放課後児童クラブの施設・設備やおやつを提供する際などの衛生管理と衛生指導 ④食物アレルギーのある子どもへの対応と救急対応の知識(アナフィラキシー・誤飲事故など) ⑤放課後児童クラブにおける子どもの安全の考え方と安全対策・緊急時対応の基本的な取組内容 	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後児童クラブに通う子どもの特性に配慮した子どもの健康管理・情緒の安定を確保することの必要性と取り組むべき事項を学ぶ。 ②子どもの健康維持のための衛生管理に取り組むべき事項を学ぶ。 ③食物アレルギー等への対応に関する必要な知識を学ぶ。 ④放課後児童クラブで取り組む必要のある安全対策・緊急時対応の基本を学ぶ。

専門研修(放課後児童コース)(案)③

項目・科目名	区分	時間数	内容(主な内容)	目的(ねらい)
5. 放課後児童クラブに従事する者として求められる役割・機能				
⑥放課後児童クラブに従事する者の仕事内容と職場倫理	講義	90分	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後児童クラブの仕事内容 ②子どもや保護者と直接関わる仕事を支える職務の内容と育成支援の記録の必要性 ③運営主体の人権の尊重と法令の遵守(個人情報保護等)のあり方 ④放課後児童クラブに従事する者の社会的責任と職場倫理 ⑤放課後児童クラブにおける職員集団のあり方と補助員の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後児童クラブの仕事と育成支援の職務内容を学ぶ。 ②運営主体の人権の尊重と法令の遵守のあり方を学ぶ。 ③放課後児童クラブに従事する者の社会的責任と職場倫理の必要性や職員集団のあり方を学ぶ。

6科目・9時間

専門研修(社会的養護コース)(案)①

項目・科目名	区分	時間数	内 容	目 的
1. 社会的養護の理念				
(1)社会的養護の理解	講義	60分	①社会的養護とは ②子ども家庭福祉、社会的養護の理念 ③社会的養護体系について ④社会的養護の課題と将来像 ⑤社会的養護と自立支援	①社会的養護の概要について、その背景となる社会の課題とともに理解する。 ②社会的養護の基本理念を理解する。 ③社会的養護の体系を理解する。 ④社会的養護の課題と将来像を理解する。 ⑤社会的養護における子どもの自立支援について、アセスメントや自立支援計画の意義を含めて理解する。
(2)子ども等の権利擁護対象者の尊厳の遵守 職業倫理	講義	60分	①子どもの最善の利益 ②子ども・保護者の意見表明、苦情解決の仕組み ③被措置児童等虐待の防止 ④養育者・支援者の資質、メンタルヘルス	①「児童の権利に関する条約」、国連「児童の代替的養護に関する指針」を踏まえ、そこに掲げられた子どもの最善の利益を尊重した支援の提供のため、「子どもの最善の利益」について理解する。 ②子ども・保護者の意見表明と苦情解決の仕組みを理解する。 ③被措置児童等虐待及び防止に向けた取り組みについて理解する。 ④養育者・支援者の心身の健康が子ども等の心身の健康に結びついていることを理解する。
2. 対象者の理解				
(3)社会的養護を必要とする子どもの理解	講義 演習	90分	①発達段階ごとの理解 ②発達支援を必要とする子どもの理解 ③虐待が子どもに及ぼす影響 ④保護者からの分離を体験した子どもの理解 ⑤支援者からの二次被害	①子どもの発達段階について理解する。 ②発達支援を必要とする子どもの特性を理解する。 ③虐待(家庭における配偶者等からの暴力(DV)を含む)が子ども・家族に及ぼす影響について理解する。 ④保護者からの分離を体験した子どもの特性や愛着障害について理解する。 ⑤支援者からの二次被害について理解する。
(4)家族との連携	講義	60分	①家族との連携の意義 ②支援を必要とする保護者との連携 ③家族再構築支援の実際	①子どもの自立の過程において必要不可欠な子どもと家族との関係の意義を理解する。 ②保護者の抱える困難(障害・傷病、DV、貧困等)を理解する。 ③家族再構築支援の実際を理解する。

専門研修(社会的養護コース)(案)②

科目名	区分	時間数	内 容	目 的
(5)地域との連携	講義	60分	①関係機関の理解 ②地域との連携の意義 ③より専門的な支援を必要とする場合の関係機関(医療機関等)との連携について	①子どもを支援する関係機関、保護者を支援する関係機関の名称や役割を理解する。 ②地域に開かれた養育のため、地域との連携の意義を理解する。 ③より専門的な支援を必要とする子どもに対する関係機関との連携について理解する。
3. 支援技術				
(6)社会的養護を必要とする子どもの遊びの理解と実際	講義 演習	90分	①「遊び」の意義 ②年齢に応じた遊びの内容 ③配慮すべきこと	①社会的養護を必要とする子どもの「遊び」の意義を理解し、乳幼児期から児童期までの遊びの実際を体験する。 ②年齢に応じた「遊び」について理解する。 ③「遊び」を支援する際の基本的原則と配慮すべきことを理解する。
(7)支援技術	演習	60分	①子どものニーズに応じたコミュニケーションスキル ②生活における支援 ③記録(日誌を含む)の書き方 ④個人情報の保護	①対人援助の基本である傾聴と共感・メッセージの伝え方等について理解する。 ②生活場面での関わり方(ほめ方、しかり方等)について理解する。 ④日誌を含む記録の書き方として、客観的事実と評価情報を区別することを理解する。 ⑤個人情報の保護と情報開示について理解する。
(8)緊急時の対応	講義	60分	①子どもの発達段階における事故防止 ②緊急時の連絡・対応について ③配慮を要する対応について ④現場で起こりうる危機場面について	①事故を未然に防ぐ予防策や緊急時の対応について理解する。 ②緊急時の連絡・対応について理解する。 ③配慮を要する対応について理解する。 ④子ども間の暴力等の危機場面の対応について理解する。
4. 演習				
(9)施設等演習	演習	120分	①社会的養護の現場の理解(画像等) ②演習	①施設の概要を理解する。(画像視聴等) ②施設職員等とのグループワークなどで実際の業務について理解する。

専門研修(地域保育コース)(案)①

【共通科目①】

科目名	区分	時間	内容	目的
1. 地域保育の基礎を理解するための科目				
①乳幼児の生活と遊び	講義	60分	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの発達と生活 ②子どもの遊びと環境 ③人との関係と保育のねらい・内容 ④子どもの一日の生活の流れと役割 	<ul style="list-style-type: none"> ①発達・成長過程に応じた子どもの生活への援助方法について理解する。 ②年代に応じた子どもの遊びとその設備について理解する。 ③子ども同士の関わりあいが、発達を促すことについて理解する。 ④子どもの一日の生活の流れの中で、保育者(※)の役割を理解する。 <p>(※)【共通科目】において、保育者とは、家庭的保育補助者、保育従事者及び提供会員をいう。</p>
②乳幼児の発達と心理	講義	90分	<ul style="list-style-type: none"> ①発達とは ②発達時期の区分と特徴 ③ことばとコミュニケーション ④自分と他者 ⑤手のはたらきと探索 ⑥移動する力 ⑦こころと行動の発達を支える保育者の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ①0歳から3歳くらいまでの乳幼児期の発達のポイントを理解するとともに、発達に応じた遊びやその安全性について考える。 ②子どもの発達を支える保育者の役割について理解を深める。
③乳幼児の食事と栄養	講義	60分	<ul style="list-style-type: none"> ①離乳の進め方に関する最近の動向 ②栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント ③食物アレルギー ④保育者が押さえる食育のポイント 	<ul style="list-style-type: none"> ①離乳の進め方に関する最近の動向を理解する。 ②幼児期の昼食作りに役立つ栄養バランスのポイント、食品衛生の基礎知識を理解する。 ③食物アレルギーについての理解を深める。 ④保育者がおさえる食育のポイントを理解する。
④小児保健 I	講義	60分	<ul style="list-style-type: none"> ①乳幼児の健康観察のポイント ②発育と発達について ③衛生管理・消毒について ④薬の預かりについて 	<ul style="list-style-type: none"> ①保育を行う上で必要となる健康管理のポイントや疾病の予防と感染防止への対応、保育中の発症への対応などの基礎知識について学ぶ。 ②現場に生かせる、より具体的な対応を学ぶ。

専門研修(地域保育コース)(案)②

【共通科目②】

科目名	区分	時間	内容	目的
⑤小児保健Ⅱ	講義	60分	①子どもに多い症例とその対応 ②子どもに多い病気（SIDS等を含む）とその対応 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「保育所における感染症対策ガイドライン」を周知する。 ③事故予防と対応	①子どもに多い症状・病気を知りその対応を理解する。 ②小児に多い事故を理解し、その予防と対応を実践できる。 ③異物除去法、心肺蘇生法を理解し、緊急時に実践できる。
⑥心肺蘇生法	実技	120分	①心肺蘇生法、AED、異物除去法等 ※見学だけの科目にならないよう参加人数等の配慮が必要。	①乳幼児を対象とした救急救命が行えるように、その技術を身につける。
2. 地域保育の実際を理解するための科目				
⑦地域保育の環境整備	講義	60分	①保育環境を整える前に ②保育に必要な環境とは ③環境のチェックポイント	①保育環境の整備にあたり、基本的な考え方と配慮事項を理解する。 ②保育を行うために作られた場所ではないところを保育の場として利用する上での工夫や配慮を学ぶ。 ③保育に必要な設備・備品とその配置について、具体的事例およびチェックポイントを示し、自己点検を行えるようにする。
⑧安全の確保とリスクマネジメント	講義	60分	①子どもの事故 ②子どもの事故の予防 保育上の留意点 ③緊急時の連絡・対策・対応 ④リスクマネジメントと賠償責任	①保育環境上起こりうる危険について理解し、事故を未然に防ぐための予防策や安全確保の留意点について学ぶ。 ②万一事故が起こった場合の対応や報告について理解する。

専門研修(地域保育コース)(案)③

【共通科目③】

科目名	区分	時間	内容	目的
⑨保育者の職業倫理と配慮事項	講義 ・ 演習	90分	①保育者の職業倫理 ②保育者の自己管理 ③地域等との関係 ④保育所や様々な保育関係者との関係 ⑤行政との関係	①保育者としての職業倫理について考え、理解を深める。 ②保育者の自己管理について学ぶ。 ③地域住民との関係づくりについて考え、学ぶ。(家庭的保育における家庭的保育者の家族との関係にも留意する。) ④保育所や様々な保育関係者との関係づくり、行政との関係などについて考え、学ぶ。 ⑤児童虐待が疑われた場合の保育者としての対応について理解する。
⑩特別に配慮を要する子どもへの対応(0～2歳児)	講義	90分	①気になる行動 ②気になる行動をする子どもの行動特徴 ③気になる行動への対応の考え方 ④気になる行動の原因とその対応 ⑤保育者の役割 ⑥遊びをとおして、子どもの発達を促す方法	①0～2歳の気になる行動をどのように考え、どう関わっていけばよいかを行動特徴の把握などをとおして学ぶ。 ②特別に配慮を要する子どもへの対応における保育者の役割を学ぶ。 ※ 発達の遅れが疑われる場合、保護者の思いを踏まえた上で対応が必要であることについて学ぶ。 (専門機関との連携を含む。) ③遊びをとおして、子どもの発達を促す方法を学ぶ。
3. 研修を進める上で必要な科目				
⑪グループ討議	演習	90分	①討議の目的 ②討議の原則 ③討議の効果 ④討議のすすめ方 ⑤グループ討議(演習)	①研修参加者が討議のテーマにそって話し合うための方法やマナーを学ぶ。 ②テーマについて、自分の意見を述べたり、他の参加者の意見を聞く相互作用を通じて、考えをまとめたり、問題点を整理したり、解決方法を検討する。 ③今後学びたい内容あるいは助言者に質問したいことなどを、グループ内で話し合う。 ④研修で学んだことについてグループ討議を行い、理解を深める。

【共通科目④】

科目名	区分	時間	内容	目的
4. 自治体の制度や地域の保育事情等を理解するための科目				
⑫実施自治体の制度について(任意)	講義	60分 ～ 90分	①関係機関 ②地域資源	①実施自治体の保育関係施策や関係機関について理解する。 ※ 一時預かり事業を含めた地域子ども・子育て支援事業について理解する。

12科目・15時間～15.5時間

【地域型保育①】

科目名	区分	時間	内容	目的
①地域型保育の概要	講義	60分	①地域型保育の事業概要 ②地域型保育の特徴 ③地域型保育のリスクを回避するための課題	①地域型保育の各事業の概要や位置づけを理解する。 ②地域型保育の特徴を理解し、保育所保育との共通点、相違点を把握する。 ③規模の小さい地域型保育の意義及びリスクについて理解し、リスクを回避するための課題について考える。 (注) 一時預かり事業の研修受講を促す。
②地域型保育の保育内容	講義・演習	120分	①地域型保育における保育内容 ②地域型保育の1日の流れ ③異年齢保育 ④新しく子どもを受け入れる際の留意点 ⑤地域の社会資源の活用 ⑥保育の計画と記録 ⑦保育の体制	①地域型保育における基本的な1日の流れや保育内容を学ぶ。 ②少人数の異年齢児を保育する際の方法、工夫、留意事項などを学ぶ。 ③新しく子どもを受け入れる際の留意点を学ぶ。 ④計画や記録の必要性を学び、子どもの育ちの見通しをもって保育することの重要性を理解する。
③地域型保育の運営	講義	60分	①設備及び運営の基準の遵守 ②情報提供 ③受託までの流れ ④地域型保育の運営上必要な記録と報告	①設備及び運営の基準の内容について理解する。 ②情報提供の方法、受託前の利用者との面接、記録や報告の管理などについて学ぶ。
④地域型保育における保護者への対応	講義・演習	90分	①保護者との関わりと対応 ②保護者への対応の基本 ③子育て支援における保護者への相談・助言の原則 ④保護者への対応 ～事例を通して考える～	①保護者と協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を理解するとともに、このために必要な知識と技術を身につけることを理解する。 ②地域型保育における保護者への対応において、保護者との信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解を深める。

【地域型保育②】

科目名	区分	時間	内容	目的
⑤見学実習オリエンテーション	演習	30分～60分	①見学実習の目的 ②見学実習のポイントと配慮事項 ※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。	①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて学ぶ。 ②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。
⑥見学実習	実習	2日以上	1日目 保育の1日の流れを見る 2日目 保育の記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ ※認可保育所での0～2歳児の保育に関する見学実習も可能とする。	①地域型保育の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察して理解を深める。 ②保育に取り組むに際して、具体的に参考になることを学ぶ機会とする。(家庭的保育は、家庭的保育者個人の自宅であり、異なる地域の環境の中でそれぞれ独自の工夫をして、保育を展開していることに留意する。) ③(見学実習を講義・演習に代える場合)子どものおむつ交換、食事の介助など、子どもの生活援助について演習を通じて理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。
	講義・演習	実習と同程度の内容を担保(1日以上)	※可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。	

6科目・6時間～6.5時間+2日以上

専門研修(地域保育コース)(案)⑦

【一時預かり事業①】

科目名	区分	時間	内容	目的
①一時預かり事業の概要	講義	60分	<ul style="list-style-type: none"> ①一時預かり事業とは ②一時預かり事業の意義 ③一時預かり事業の特徴 ④一時預かり事業従事者の基本姿勢 	<ul style="list-style-type: none"> ①一時預かり事業の子育て支援としての意義、継続的な保育との相違について理解する。 ②一時預かり事業の特徴を理解し、従事者として、子どもや保護者との関わり方における基本姿勢について学ぶ。
②一時預かり事業の保育内容	講義・演習	120分	<ul style="list-style-type: none"> ①初めて会う子どもとの関係づくり ②一人ひとりの発達に応じた生活の援助 ③一人ひとりの発達に応じた遊びの援助 ④子どもの心身の負担への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ①初めて会う子どもとの信頼関係を形成する具体的な関わり方を学ぶ。 ②一時預かり事業は子どもの家庭生活の延長にあるため、一人ひとりの状態に対応し、子どもが安心して過ごせるようにすることを学ぶ。 ③子どもの不安を安心に変える具体的な関わり方を学ぶ。
③一時預かり事業の運営	講義	60分	<ul style="list-style-type: none"> ①一時預かり事業の業務の流れ ②情報提供、受付、登録 ③記録、保護者への報告 ④職場倫理・チームワーク、職員間の共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> ①一時預かり事業の一日の流れを理解する。 ②記録や保護者への報告の記載の仕方、保護者のプライバシーの遵守、職員間の連携の必要性について学ぶ。
④一時預かり事業における保護者への対応	講義・演習	90分	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者との関わりと対応 ②保護者への対応の基本 ③子育て支援における保護者への相談・助言の原則 ④保護者への対応 ～事例を通して考える～ 	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者と協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を理解するとともに、このために必要な知識と技術を身につけるようにする。 ②一時預かり事業における保護者への対応において、信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解を深める。

【一時預かり事業②】

科目名	区分	時間	内容	目的
⑤見学実習オリエンテーション	演習	30分～60分	①見学実習の目的 ②見学実習のポイントと配慮事項 ※見学実習を講義・演習に代える場合は省略。	①見学実習を行うに当たって必要な配慮事項や見学のポイントについて学ぶ。 ②見学実習でどのようなことを学びたいか、あらかじめ考える機会とする。
⑥見学実習	実習	2日以上	1日目 保育の1日の流れを見る 2日目 保育の記録・計画、受付等の書類や環境構成、保護者対応の実際等について学ぶ ※認可保育所での保育に関する見学実習も可能とする。	①一時預かり事業の現場に出向き、講義で学んだ環境整備や保育内容、安全確保など、実際に見学・観察して理解を深める。 ②保育に取り組むに際して、具体的に参考になることを学ぶ機会とする。 ③(見学実習を講義・演習に代える場合)子どものおむつ交換、食事の介助など、子どもの生活援助について演習を通じて理解する。ミルクやほ乳瓶などの実物を知る。
	(講義・演習)	(実習と同程度の内容を担保(1日以上))	(※可能な限り見学実習を実施することが望ましいが、地域の実情等に応じ、DVDの視聴等と講義・演習などによる実施も可能とする。)	

6科目・6時間～6.5時間+2日以上

【ファミリー・サポート・センター】

科目名	区分	時間	内容	目的
①ファミリー・サポート・センターの概要	講義	60分	①ファミリー・サポート・センターとは ②ファミリー・サポート・センターの意義 ③ファミリー・サポート・センターの特徴	①地域における相互援助活動としてのファミリー・サポート・センターの活動の内容や意義について学ぶ。
②ファミリー・サポート・センターの援助内容	講義・演習	120分	①ファミリー・サポート・センター援助活動における基本姿勢 ②援助活動の流れ ③活動を行う上での配慮事項 ④発達に応じた保育内容・生活援助	①保育者(提供会員)として子どもや保護者(依頼会員)に対する心構え、配慮しなければならない点について学ぶ。 ②援助活動の流れを理解する。 ③年齢や発達に応じた保育内容・生活援助をする際の方法や工夫、留意事項などを学ぶ。
③ファミリー・サポート・センターにおける保護者への対応	講義・演習	90分	①保護者との関わりと対応 ②保護者への対応の基本 ③保護者への対応～事例を通して考える～	①保護者(依頼会員)と保育者(提供会員)が協力して子どもの発達を支えるとともに、保護者の子育てを支援する役割についての意義を理解する。また、このために必要な知識と技術を身につけるようにする。 ②保護者(依頼会員)との対応において、保護者との信頼関係づくりや保護者への支援が必要な際の関わり方について、重要なポイントを学び、事例検討などを通して考え、理解を深める。
④援助活動の実際	講義・演習	120分	①実際の活動について学ぶ 活動経験者に援助活動の実際を聞く 活動に関する疑問・不安等についての質疑応答	①先輩保育者(提供会員)から直接話を聞き、講義で学んだ環境整備、援助内容、安全確保などに関する理解を深める。 ②援助活動に取り組むに際して、具体的に参考になることを学ぶ機会とする。

4科目・6.5時間

専門研修(地域子育て支援コース<利用者支援事業(基本型)>)(案)①

科目	区分	時間数	内容	目的
1. 事前学習 (8時間)				
① 地域資源の把握	演習	(480分 (8時間) 相当)	①地域資源の把握 ②受講者の周りの地域資源の情報収集と整理の実施	①事前に周りにある地域資源について、意識することにより、実際の研修(特に演習)の際に、イメージを持たせることで、より実践的な研修となることを目指す。
2. 講義・演習 (8時間)				
② 利用者支援事業の概要	講義	60分	①事業成立の背景と目的 ②事業の内容 ③当該地域における実施状況	①利用者支援事業の意義、内容、機能等について理解する。
③地域資源の概要	講義	60分	①社会資源とは ②地域における社会資源の把握と連携	①ニーズに応じた情報提供や支援体制の構築のために、社会資源の概要と地域にある社会資源の種類、内容について把握し、その提供方法等について理解する。
④ 利用者支援専門員に求められる基本的姿勢と倫理	講義	90分	①利用者支援専門員の役割 ②支援における基本原則～受容と自己決定の尊重、信頼関係の構築～ ③特別な配慮が必要となる利用者への配慮事項 ④個人情報と守秘義務	①支援にあたっての利用者支援専門員としての役割と基本的な心構えについて理解する。 ②特別な配慮が必要となる利用者を支援する際配慮すべき点について理解する。 ③守秘義務と情報共有の重要性について理解する。
⑤記録の取扱い	講義 又は 演習	60分	①記録の目的 ②記録の種類、項目、記述の方法 ③記録の管理	①事業の適切かつ円滑な実施のために、記録の目的、種類、手法(管理方法含む)や重要性について、理解する。
⑥事例分析 I ～ジェノグラムとエコマップを活用したアセスメント～	演習	90分	①ジェノグラムとエコマップの書き方 ②事例に基づくジェノグラムとエコマップの作成と支援方法の検討	①ジェノグラムとエコマップの書き方を学び、家族関係やその家族と社会資源の関係について適切に把握できるよう、事例を踏まえて実践する。

専門研修(地域子育て支援コース<利用者支援事業(基本型)>)(案)②

科目	区分	時間数	内容	目的
2. 講義・演習 (8時間) <つづき>				
⑦事例分析Ⅱ ～社会資源の活用とコーディネーション～	演習	90分	①事例による地域における社会資源の活用と連携の検討	①利用者のニーズに応じた資源の紹介と選定、仲介までを学ぶ。 ②地域の社会資源のメリットデメリットを理解し、他機関と連携した支援について具体的方法を検討する。
⑧まとめ	講義	30分	①利用者支援事業で求められる姿勢についての再確認	①履修した内容と今後の課題認識を確認し、利用者支援専門員としての役割や心構えを再確認する。
3. 見学実習 (8時間)				
⑨地域資源の見学	見学実習	480分 (8時間)	①地域資源の実際を見学により学ぶとともに、担当者との面識をもつ	①実際の現場を体験し、業務の円滑な実施につなげる。

9科目・24時間

専門研修(地域子育て支援コース<利用者支援事業(特定型)>)(案)

科目	区分	時間数	内容	目的
①利用者支援事業の概要	講義	60分	①事業成立の背景と目的・事業内容 ②当該地域における実施状況	①利用者支援事業の意義、内容、機能等について理解する。
②利用者支援専門員に求められる基本的姿勢と倫理	講義	60分	①利用者支援専門員の役割 ②支援における基本原則～受容と自己決定の尊重信頼関係の構築～ ③特別な配慮が必要となる利用者への配慮事項 ④個人情報と守秘義務	①支援にあたっての利用者支援専門員としての役割と基本的な心構えについて理解する。 ②特別な配慮が必要となる利用者支援する際配慮すべき点について理解する。 ③守秘義務と情報共有の重要性について理解する。
③保育資源の概要	講義 又は 演習	90分	①保育制度の概要 ②保育資源の種類と内容 ③ニーズに応じた保育資源・サービスの提供の方法	①ニーズに応じた情報提供や支援体制の構築のために、保育制度の概要と地域にある保育資源の種類、内容について把握し、その提供方法等について理解する。
④記録の取扱い	講義 又は 演習	60分	①記録の目的 ②記録の種類、項目 ③記録の書き方 ④記録の管理	①事業の適切かつ円滑な実施のために、記録の目的、種類、手法(管理方法含む)や重要性について、理解する。
⑤まとめ	講義	60分	①振り返りとグループ討議	①履修した内容の総括と今後の課題認識を確認する。

5科目・5. 5時間

専門研修(地域子育て支援コース<地域子育て支援拠点事業>)(案)

科目	区分	時間数	内容	目的
① 地域子育て支援拠点を全体像で捉えるための科目	講義	60分	①地域子育て支援拠点の制度上の位置づけと成立ち ②地域子育て支援拠点に求められる機能 ③地域子育て支援拠点における支援者の役割	①関連制度、地域子育て支援拠点事業の経緯を理解する。 ②基本4事業の内容、予防型支援の必要性について理解する。 ③支援者の役割について理解する。
②利用者理解	演習	60分	①利用者理解を深める演習	①利用者の立場になって、あるべき支援の在り方について検討・理解する。
③ 地域子育て支援拠点の活動	講義	60分	①子どもの発達を意識した環境づくり ②子どもの発達を促す環境づくりの工夫 ③利用者ニーズに配慮したプログラム	①発達の基本、子どもの遊び、他者との関わりについて理解する。 ②具体的な環境づくりについて理解する。 ③利用者ニーズに配慮した講座(プログラム)の実際。
④講座の企画	演習	60分	①具体的な講座やプログラムづくり	①利用者に共通するニーズから講座(プログラム)を企画・実施する意味と方法を理解し、実際の現場での支援の在り方を検討する。
⑤事例検討	演習	60分	①事例にもとづく検討	①実際の事例を元に、具体的な対応方法について理解する。
⑥地域資源の連携づくりと促進	講義	60分	①多様な地域資源の理解、連携づくりの促進	①情報提供や支援体制の構築のために、地域資源や連携づくりの重要性について理解する。

6科目・6時間

子育て支援員研修(基本・専門)の時間数(案)

研修時間数

基本研修
<p><8科目></p> <p>8時間</p>



専門研修		時間数	
放課後児童コース		6科目・9時間	
社会的養護コース		9科目・11時間	
地域子育て支援コース	基本型	9科目・24時間	
	特定型	5科目・5.5時間	
	地域子育て支援拠点事業	6科目・6時間	
地域保育コース	共通	12科目・15～15.5時間	
	選択	地域型保育	6科目・6～6.5時間 +2日以上
		一時預かり事業	6科目・6～6.5時間 +2日以上
		ファミリー・サポート・センター	4科目・6.5時間



総時間数		現行
14科目・17時間		— (放課後児童支援員: 24時間)
17科目・19時間		—
17科目・32時間		—
13科目・13.5時間		—
14科目・14時間		—
地域型保育	26科目・29時間～30時間 +2日以上	・家庭的保育者基礎研修 21時間 ～22時間 +2日以上
一時預かり事業	26科目・29時間～30時間 +2日以上	・ファミリー・サポート・センター (推奨) 24時間
ファミリー・サポート・センター	24科目・29.5時間 ～30時間	

子育て支援員研修(フォローアップ研修・現任研修)(案)①

地域保育コース

<基本的な考え方>

○事業に従事した後も継続的に市町村等において、フォローアップ研修・現任研修(以下「フォローアップ研修等」という。)を実施することが重要。とりわけ、子どもの立場に立った生活と遊びに関する研修や低年齢児を対象とすることから、子どもの事故防止や安全等に関する研修を継続的に行うことが必要。

<研修が従事要件となっている事業>

1. 家庭的保育事業の家庭的保育補助者に対する研修

- ・家庭的保育事業は、実施事業者が個人の場合もあり、当該事業所内のみでフォローアップ研修等を行うことが難しいことから、市町村等が研修を実施することが望ましい。
- ・その際には、家庭的保育者と家庭的保育補助者が同じ研修を受講できるよう配慮することが必要。
- ・現在、「家庭的保育事業の実施について」(平成21年10月30日雇児発第1030第2号)で示されている「フォローアップ研修」及び「現任研修」を基に実施することが望ましい。

2. 小規模保育事業、事業所内保育事業及び一時預かり事業の保育従事者に対する研修

- ・小規模保育事業、事業所内保育事業及び一時預かり事業(以下「小規模保育事業等」)については、事業所の規模が小さい場合もあるため、各事業所ごとに行われるフォローアップ研修等だけでなく、市町村等においても研修を実施することが望ましい。
- ・その際には、小規模保育事業等の保育士と保育士資格のない保育従事者(小規模保育業(C型)については家庭的保育者と家庭的保育補助者)が同じ研修を受講できるよう配慮をすることが必要。
- ・小規模保育事業等については、事業種別ごとに実施される研修だけではなく、認可保育所の保育士を対象とする研修に参加できるよう市町村等が配慮することが望ましい。

<研修が従事要件となっていない事業>

○ファミリー・サポート・センター事業については、「子育て援助活動支援事業(ファミリー・サポート・センター事業)の実施について」(平成26年5月29日雇児発0529第17号)において、フォローアップ研修等の実施により、活動の質の維持、向上に努めるよう市町村に求めているところであり、引き続き、当該通知に基づき実施されることが望ましい。

子育て支援員研修(フォローアップ研修・現任研修)(案)②

<配慮が必要な事項>

- フォローアップ研修等について、民間の研修実施機関などによる実施も含め、研修の機会を確保することが必要。
- 事業に従事しなくなってから一定期間経過した者が、再度事業に従事する際の研修の受講にも配慮することが必要。

(参考) 現行の家庭的保育のフォローアップ研修・現任研修

【フォローアップ研修】

[家庭的保育の経験年数2年未満の者]

目的・内容
<p>(目的)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎研修において修得した内容を実践した上での、疑問・悩みの解消 ・関係する行政機関との連携関係の構築 ・家庭的保育者間での連携関係の構築 <p>(内容)</p> <p>家庭的保育者からの相談・質問を中心とした研修</p> <p>[例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の相談(異年齢保育等) ・避難経路の確保、避難訓練等の計画 ・記録等の書類の作成方法 ・経理方法等の指導 など

※経験年数2年未満の者に対しては、少なくとも2か月前に1回以上実施することが望ましい。

【現任研修】

[すべての家庭的保育者]

科目名	時間
①最近の児童福祉行政	1時間
②家庭的保育の運営・管理	2時間
③子ども(3歳未満児)の心身の発達と保育	3時間
④子ども(3歳未満)の健康管理	3時間
⑤子ども(3歳未満児)の栄養管理	3時間
⑥子ども(3歳未満児)の安全と環境	3時間
⑦保護者理解と対応	3時間

・地域の実情に応じて、受講者が受講しやすいよう、研修日や時間を工夫しながら、年1回実施する。

子育て支援員研修(フォローアップ研修・現任研修)(案)③

放課後児童コース・社会的養護コース・地域子育て支援コース

<基本的な考え方>

- 放課後児童コース、社会的養護コース、地域子育て支援コース(以下、「放課後児童コース等」という。)の各事業においても継続的に市町村等においてフォローアップ研修等を実施することは重要である。
- 放課後児童コース等の各事業のフォローアップ研修等については、各事業の実施状況等が異なることから地域の実情等の応じて、子育て支援員研修(基本・専門)において修得した内容と、各事業の従事者としての日々の実践(業務)を通じた疑問や悩みの解消や問題解決を支援するフォローアップ研修と各事業の従事者としての資質の向上を図るための基本・専門分野に関する知識・技術等の修得も目的とする現任研修を行うことが望ましい。
- 実施にあたっては、地域や事業の実情に応じてフォローアップ研修と現任研修の一体的な実施や、基本研修及び専門研修のカリキュラムの内容を発展させて行うほか、関連する事業・分野との合同開催などフォローアップ研修と現任研修の目的等から事業の特性等を勘案して実施することが望ましい。

子育て支援員研修(フォローアップ研修・現任研修)(案)④

放課後児童コース・社会的養護コース・地域子育て支援コースでの例

【フォローアップ研修例】

(対象者:経験年数2年未満の者)

(時間数) 年2回程度(※) / 1回2時間程度

※経験年数1年未満の者を対象とする場合には、2ヶ月に1回以上が望ましい。

【現任研修例】

(対象者:すべての従事者)

(時間数) 実施頻度、時間数については、各事業の特性に応じて定めるものとする。

目的・内容

(目的)

子育て支援員(仮称)研修において修得した内容と各事業に従事し、日々の実践を通じて生じた疑問や悩みの解消や関係機関との連携のあり方など問題解決への支援

(内容)

業務に携わる中で生じた相談・質問を中心とした研修

[例]

- ・保育内容の相談(異年齢保育等)
- ・子ども・保護者の支援のあり方
- ・避難経路の確保・避難訓練等の計画
- ・記録等の書類の作成方法
- ・安全管理等
- ・関係機関との連携等 など

科目名

時間数

(基本分野)

①子ども・子育て家庭の現状

②子ども家庭副書

③子どもの発達

・

・

(専門分野)

・

・

・研修科目・時間数については、地域の実情等に応じて基本研修、専門研修の組合せにより実施。

・研修科目については、事業の特性に応じて、関連する分野(ex. 障害を持つ保護者への対応やスーパービジョンなど)を取り入れ実施するなど地域の実情等に応じて実施。